

氏 名	石川 優
学 位 の 種 類	博士（文学）
学 位 記 番 号	第 5734 号
学位授与年月日	平成 24 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当者
学 位 論 文 名	物語テキストの再生成の力学-「やおい」の物語論的分析を中心として-
論文審査委員	主 査 教授 三上 雅子 副 査 教授 小田中 章浩 副 査 教授 福島 祥行

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、ある物語から別の物語が派生する仕組みと過程について、「やおい」を対象として考察するものである。ここでいう「やおい」とは、「女性を主な担い手とした、先行テキスト（「原作」と呼ばれる）に描かれる男性キャラクター間の関係を主に恋愛的な関係に編み直した、マンガや小説などの創作物」を意味する。本論文では、「やおい」の物語は原作とどのように結びつき、また原作をどのように変形することでテキストとして成立しているのかという点について、主に物語論を理論的枠組として検討した。分析対象となる事例は、一定の条件下で収集された、特定の原作（商業マンガ）に基づく「やおい」のマンガ同人誌である。以下、各章の概要について述べる。

第 1 章では、「やおい」の定義、形成史、先行研究について概観した。まず、「やおい」は 1970 年代末に生まれ、「少年愛」、「June」、「ボーイズラブ（BL）」と並行して、ひとつのジャンルとして定着したことを確認した。次に、先行研究を「やおい/BL」研究、ファン文化研究、二次創作（原作の物語世界やキャラクターなどを借用した、二次的な表現行為/物）研究という 3 つの点から整理した。従来の研究では、「やおい」を愛好する女性のセクシュアリティやジェンダーに注目が集まり、テキスト分析は充分におこなわれていないことを指摘した。

第 2 章では、事例としてとりあげる原作のテキスト分析をおこなった。まず、週刊連載という作品の発表形態に着目し、原作の掲載誌に独自の物語構築のシステムが確立されていることを確認した。次に、原作は、そのシステムが提供する物語コードを部分的にずらして、キャラクターの関係性のヴァリエーションを生み出していることを明らかにした。

第 3 章では、事例の二次創作の規模と、その中で「やおい」が占める割合の歴史的遷移について検証した。日本最大の同人誌即売会である「コミックマーケット」に検証対象を絞り、過去に発行されたカタログから、一定の基準にしたがってサークル（同人誌を制作する個人または集団）のスペース（同人誌即売会で各サークルに割り当てられた頒布空間）の数を抽出し、分類した。分類結果から、「やおい」を制作するサークル数がつねに全体の半数以上であると推測されることがわかった。

第 4、5 章では、「やおい」の物語分析をおこなった。ジェラール・ジュネットによるハイパーテキスト性という概念を応用し、「やおい」の物語における原作との同一性の保証、あるいは原作の変形について「キャラクター」と「プロット」という 2 つの点から分析した。分析に基づき、「やおい」の物語を 4 つに区分し、それぞれの機能について検討した。

以上の考察をつうじて、本論文は「やおい」を「関係性の物語」として結論づけた。ここでいう関係性の物語とは、ふたつのレベルでとらえられる。第一のレベルは、物語内容に関するものである。本論文は、「やおい」の物語が単に二者関係に焦点を当てているだけでなく、その関係の「持続可能性」を志向していることを指摘した。第二のレベルは、テキストの生成と受容に関するものである。「やおい」は多元的な記号的体系へと接続することで生成され、それが多元的な記号的体系の中で読まれることによって成立する。本論文は、「やおい」が「関係性の読書」によって成立する「関係性の物語」であり、物語を読み/描くという相互関係的な力学の中で生成されていることを明らかにした。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文において考察・分析の対象とされているのは、いまや、現代日本文化の重要な一部分を形成

していると言っても過言ではない「二次創作」、つまり既存の先行作品の設定やキャラクターなどを借用しておこなわれる、ファンによる二次的な表現行為および制作物、特にその一形態である「やおい」（既存の（主に商業的な）作品に描かれる男性キャラクター間の関係を、恋愛関係として読みなおした作品群）である。

「やおい」に関する先行研究はすでに少なからず存在するが、それらは主に「なぜ女性が男性同士の愛の物語を生産し、消費するのか」という問いをめぐる議論に重点が置かれていた。したがってここでは、ジェンダーをめぐる社会構造や女性の心理的抑圧、女性集団の紐帯などが論じられる一方で、「やおい」の物語分析そのものは詳細に論じられることが稀であった。しかし、二次創作としての「やおい」を考察するとき、一次的テキスト（「原作」）とどのように関係することで成立しているのという問題を避けることはできない。二次的テキストとしての「やおい」が一次的テキストをどのように変形（あるいは継承）することで物語を生成しているか、を、物語テキストの生成の「手法」という視点から綿密な分析を通じて検討する、これが本論文における論者の立場である。本論が志向しているのは、二次的テキストとしての「やおい」が一次的テキストから生成される過程と手法を明らかにし、さらにその結果から二次的テキストが生成される欲望を探ることにあると総括できよう。

以上の課題について検討をおこなうにあたって、論者はふたつの理論的枠組みを採用している。一つは、物語における言語様式、つまり物語の表現方法に着目したジェラルド・ジュネットによる物語論、いま一つはマンガのコードの解読を主な目的としているマンガ表現論、およびそれを基盤とするキャラクター論である。

詳細な事例分析・考察を積み重ね、論者は二次創作としての「やおい」を「関係性の物語」とであると結論づける。ここでいう関係性の物語とは、ふたつのレベルでとらえられている。第一のレベルの「関係性」は、物語内容に関するものを指す。「やおい」は二者関係の物語を志向しており、二者関係の物語は、カップリングという概念によってコード化され、かつこのコードがすべてのテキスト生成手法に先行する、カップリングは、単にプロットを二者関係へと回収させるだけでなく、その二者の関係の持続可能性、つまり「関係が終わらないこと」をも示している、と論者は指摘する。

第二のレベルは、テキストの受容と生成において見出される関係性である。二次的テキストである「やおい」は、物語を読み/描くという相互関係的な力学の中で生成される、終わらない物語である「やおい」は、受容と生成の無限の連なりという点でも、「終わらない関係性」の戯れによって成立している。「やおい」の快楽とは、この絶え間ない戯れにこそ見出すことができると本論文は締めくくられている。

「やおい」が二者の関係性を志向する物語であるということは、すでに先行研究でも指摘されていた。しかしそれらの指摘が、いわばアプリアリなものであったのに対し、本論文は多くの事例サンプルを詳細に分析し、二次的テキストとしての「やおい」がどのように原作から二者の物語を造り出していくのか、その手法と過程を明らかにすることで、この結論を説得力を持って導き出している。さらに「ルールなき実践」と捉えられがちな二次創作という行為においても、共有されている約束事・ルールが存在することを検証し、「関係持続性」という概念に基づいて、二次的テキストを生み出す欲望の分析にまで論を進めている点も評価に値しよう。明快な叙述と論の展開の緻密さも、論者の分析と結論に十分な説得力を与えている。

概念規定に一層の厳密さが望まれる部分も指摘しうるが、「女性が男性同士の愛の物語を生産し、消費する」という点から、ともすればその「特異性」の解明に力点が置かれがちであった「やおい」研究を、現代ポピュラーカルチャー全般に存在する派生的実践をめぐる、より大きな広がりを持つ研究の中に位置づけることを志向した本論文は、きわめて独創的かつ刺激的で、従来の研究の欠落を埋め、今後の研究の発展に寄与することの大きい意義ある論考である。

以上の所見により、本論文は大阪市立大学博士（文学）の学位を授与するに値すると認められる。